（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	1	支度や遊びのスペースを区切り利用児が把握できるよう意識工夫している 部屋のスペースを机、巧技台など物で区切って遊ぶ場所を子どもたちにわかりやすいように視覚化しています。課題としては活動する部屋の数に限りがあるので子どもたちがクールダウンしたりする部屋があれば部屋がかぶって使えないということは少なくなるかと思います。	運動ができるようにつきの部屋の活用を検討します。 部屋をロッカーで広さの調整や空間の構造化を図りお子さんに過ごしやすい環境を工夫します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	2	職員配置数を適切にする為に、時間により入れる人が入れ替わっている。 昨年度に比べて各クラスの利用児が6名から8名に変更した曜日はスタッフは3名で対応することにした。そのことによりスタッフ同士で連携を図りお子さんに合わせた関わりはしやすくなったように思う。 子どもの状況に応じて、職員が不足している場面では、事務所に連絡をし職員をプラスで配置するなど、対応できている。	法令に遵守した人員配置ではあるが職員の研修や休みがあった際の人員は足りていないと感じることがあるため、稲城市障害福祉課に状況を伝え、相談を進めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	2	各クラスのお子さんの発達段階や特性に合わせてレイアウトを設定している。トイレは廊下に出なくてはならないため人手がかかるが、各クラスの実情に合わせてトイレの誘導時間や誘導方法を工夫している。 フロアを区切ることでお子さんが理解しやすいように配慮している。死角にならないよう背の低い家具を配置している。	便器が乳児用であり、4～5歳児には小さく使用しづらいため、稲城市障害福祉課に現状を伝え相談を進めていきます。 →大人用トイレを使用する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	3	室内環境整備に努めている 清掃を委託し、毎日行っている。	床の突起やカビなどの環境の不具合があるため、12月から5月まで床工事を実施します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	13	1	当日の登園人数やスタッフ配置によるが、必要に応じてカームダウン出来るよう配慮している 活動によって２グループに分けて部屋を別にして提供している。気持ちが落ち着かないようなお子さんに対しては必要に応じて医務室や待合室などで１対１の対応をすることがあった。 気持ちを落ち着かせる・切り替えるために空いている部屋を使用することができる。 医務室、面談室、つきなど、必要に応じて子どもが個別に過ごす場所として活用できている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13	1	朝・帰の振り返りの時間を設けて支援を振り返り、次の支援に繋げる方法を考えている 常に心掛けている 運営会議では１日の業務時間について振り返りを行うことで日課業務は就業時間内に終了することが増えている。	個別支援計画作成時期には業務日を設けているが業務過多になっています。今後は作成しやすくなるよう、作成前に支援の方向性を検討する会議を実施します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		運営会議で自己評価の振り返りをしている。 その他にもオンブズマンに要望を話していただく機会を定期的に設けており、要望や意見に対する改善を検討している。 ご意見をいただいた場合、改善に向けて話し合いを行なっている。 評価表を集計し、内容から改善できることを職員で話し合っている。	

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		運営会議で自己評価の振り返りをしている。 スタッフ面談にて意見を述べることができている。 運営会議は意見を出しやすく、出した意見は管理職が真剣に検討してくれる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	2	オンブズマンや、スーパーバイザーが定期的にGR療育を見学しアドバイスをいただいている。個別療育においては、法人のスタッフ、スーパーバイザーによるアドバイスの機械を設けている。 ３年に１度、第三者評価機関による外部評価を実施することになっている。次年度が評価期間である。 オンブズマンや心理士によるSVを定期的に実施している。 クラス療育・個別療育共に定期的にスーパーバイズを受けている。 オンブズマンに療育を見てもらい、意見をいただいている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14		支援においては、法人内の部会で事例検討や支援について話し合う聞きがある、月に1回、内部研修日を設け安全運転や感染症対策・不審者対応など安全な運営をするため研修を行っている 非常勤であるが講座等に参加させてもらえている 年２回の法人全体会議、月１回の事業所内研修を実施している。その他に新任研修や児童分野研修など、法人で研修を企画している。 翌年度は階層別研修が開始される。 経験年数や役職に応じた研修を受けることができる。 毎月さまざまなテーマで職員研修を行っている。また常勤職員は動画研修を受けている。	eラーンニングの研修を計画的に視聴できるように土曜出勤日や療育後の時間を活用していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	14		毎年10月に支援プログラムを改訂し、連絡ツール『コドモンアプリ』で公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14		独自のアセスメント表を使用し、各担当がアセスメントしている。見直し時期には保護者に『支援フォーム』を配布し、希望を確認した上で支援計画を作成している。 面談時に運営面や支援面での要望を聞いている。 支援計画作成前に保護者に記入してもらっているアンケートを活用している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14		各担当と児童発達支援管理責任者がお子さんの発達段階や特性を踏まえた上でその時の必要な発達支援について検討し作成している。 支援計画内容について支援にあたる職員に周知している。	支援計画作成前にモニタリングができるよう、8月にクラス単位で個別支援計画作成前のモニタリング会議を実施します。11月に個別支援計画を周知するための会議を実施します。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	1	支援計画や支援について共有する時間を設けている。	会議では個別支援計画の共有はしているが日々の支援の振り返りでは利用児のねらいを基に振り返ることが少ないです。そのためクラス単位でお子さんのねらい一覧を作成して、日々の振り返り時に活用します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14		必要に応じて新版K式発達検査やWISCⅤなどの検査を実施している。法人独自のアセスメント表を使用し、支援計画を作成している。年１回程度発達検査を実施している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	1	季節や支援計画に基づき興味ある活動を話し合っている 各クラスにより立案の進め方はそれぞれではあるが、活動プログラムの内容については事前に確認している。 常勤職員だけでなく、非常勤職員にもプログラムの案を聞いている。 クラス職員で話し合って決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		繰り返しの中で学習を重ねるお子さんも多いため、同じ活動名ではあるが活動内容には変化を加えて実施をしている。 繰り返し提供することで参加の定着が図れる場合があるため、お子さんのねらいに合わせて繰り返し提供する活動もある。製作活動は取組内容は同じでも制作物に変化させ、お子さんが興味や自信をもって取り組めるように工夫している。 活動が固定化しないよう、同じ素材でもテーマを変えたり、道具を追加するなどしている。 日々の振り返りを行なっている。 積み重ねや繰り返しが必要なものと、固定化しないで発展させていくことが必要なものとを両方組み合わせて考えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13	1	1対１の個別活動は難しいが、10名程度のグループをお子さんの興味関心に合わせて2グループに分けて支援を実施する時がある。 個別療育とグループ療育は各担当が作成している。担当同士又は個別担当者会議で支援内容を確認している。 お子さんによっては個別の活動を行うこともあるが、活動の後半には集団で活動する時間を設けるなど、活動内容を検討・実施してい	職員体制的にグループを分けての活動が難しい場合がありますが、活動によってエリアや机を分けてお子さんに合った活動を組み立てるようにします。またクラスのねらいによってはお子さん同士が場面の共有を図ることを目的に同じ製作物を提供します。共通のねらいを持ちつつ、お子さんの発達段階に合わせた道具の使用や工程の調整をします。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14		支援開始前には活動内容や支援のポイントについて確認している。 送迎に出るまでの短い時間ではあるが、必ず打ち合わせを実施して、支援内容や注意したいことなどについても共有している。 前日準備または支援開始前にミーティングを行っている。	療育後は間接業務が多く話し合いの時間が十分に設けづらい現状はありますが、クラス担当者間で連携を図り、必要な話し合いができるように工夫します。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	14		会議や研修を行う日は、当日の口頭での振り返りが難しい場合があるが、翌朝に確認するしている。また、連絡ソフトで当日の様子を記載し周知できるようしている。 各クラスで支援の振り返りをしている。インシデント内容は夕礼にて事業所全体で共有している。 支援の振り返りを行い、気づいた点を共有するだけでなく、よりよい支援を行えるように関わりや環境についても検討している。 ある程度時間を区切りながらミーテイングを行っている。	同上。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14		クラス単位で記録をとるようにしている。	お子さんの振り返り記録はスタッフ間での共有用の記録になっているため支援の検証をしづらい課題が挙げられますが、支援の方向づけをした際にはその旨を記載し、支援の検証が分かるように周知していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14		支援計画の見直し時期にモニタリング会議を実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14		稲城市はセルフプランの方が多いが、障害児計画相談を利用している方は電話や訪問時にお子さんの状況について共有している。	セルフプランの利用者が多いためか、以前の職場と比較し関係者会議に参加する機会が少ないという課題があります。お子さんの様子や支援の共有が必要な場合は電話やオンラインで情報共有を図ることを意識します。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14		市内のキラキラ学級にスタッフが出向き、療育体験を行っている。 おやこ包括支援センターと連携を図り、スタッフがキラキラ学級に出向いて発達支援について説明している。障害福祉課・おやこ包括支援センター・子ども家庭支援センター・あそびの広場向陽台・当センターのスタッフが集まり、稲城市内の子育て支援について話し合う会議を年に１回実施している。 必要に応じて各機関で情報共有を行う機会を設けている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	2	併用通園されている方には必要に応じて、園訪問を実施。また、保護者に許可を得たうえで療育の様子と並行通園先の様子を情報共有している 並行利用しているお子さんの所属園に訪問させてただき、お子さんの状態や支援について共有している。 必要に応じて園訪問に行ったり、療育の見学をしてもらうなど情報共有の機会を設けている。 保護者の同意の元、必要に応じて所属園に訪問したり、電話連絡したりして情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	希望に応じて、就学支援シートを作成。 就学支援シートの活用を勧め、当センターでの様子や支援について記載している。 就学支援シートを作成している 就学相談資料、検査報告書、就学支援シートなどを作成している。	

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	14		今年度は、隣接する施設、＆ラフさんと合同のイベントを開催し、地域との繋がりをもつことから始めている 自立支援協議会子ども部会に参加し、地域全体の子育てや障害児サービスに関するニーズ	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	14		オンブズマンや心理士によるSVを実施している。 外部専門家からSVを定期的に受けている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	14		当センターが子ども部会のとりまとめ役となり、会議を進行している。	
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	6	8		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			11月には移動水族館や地域イベントを実施し、近隣保育園や地域住民に案内する予定である。 今後アンドラフさんとの合同イベントや移動水族館などが予定されている。 地域交流イベントを行う予定 イベ地域の交流や他保育園との交流のためにイベントを行う。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14		グループ療育終了時や個別療育時、面談時にお子さんの発達状況や課題についてお伝えしている。 送迎時や連絡帳でのやりとりを行うことはもちろん、日々の療育の写真を共有している。 療育の様子の写真を公開したり、連絡帳で様子を伝えたりしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	2	年に２回勉強会を実施している。 勉強会を実施している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		初回相談時と初回利用時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	14		必ず面談を実施し、保護者の意向を確認している。 支援フォームにてご家族から見たお子さんの様子や、療育に対する希望を聞く機会を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14		面談を実施し、普段の様子を伝え、計画への同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14		支援計画の面談だけでなく、希望に応じて面談を実施したり、電話にて相談に応じることもある。 支援計画の見直し時期には必ず面談を設けている。必要に応じて随時に面談を設けることもある。	

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	1	保護者交流会を年2回実施している。また、保護者同士が顔を合わせる場として親子ピクニック1回実施。 保護者同士の交流の機会となるように、保護者会や行事などを行なっている。	保護者同士交流する機会はあるがきょうだい同士の交流機会は少ないため、園庭開放ではきょうだい児の参加を可にします。またきょうだい児が参加できる行事を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14		オンブズマンを通して、保護者から意見や改善を求められた場合は、スタッフで検討・決定しコドモンにて方針をお伝えしている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14		行事予定は日々の活動はコドモンにいて配信している 連絡ツール『コドモンアプリ』にて活動予定や地域イベントなどを発信している。 コドモンで日々の活動の様子を写真で共有している 毎月グループ療育については月案を出している。またグループ療育は適宜写真で様子を伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14		玄関や廊下は様々な人が通るため、フルネームが書かれたものは置かないようにしている。 個人情報は外側から見えないファイルを使用している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14		写真カードやサインを活用している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	3	今年度から、＆ラフさんと合同でイベントを実施。現在は利用児だけにしているが園庭を開放をしている 11月には移動水族館や地域イベントを実施し、近隣保育園や地域住民に案内する予定である。 イベントを企画している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	1	内部研修において、防犯についての講習や感染症対策を実施している。 各マニュアルは策定しており年１回改訂している。保護者への周知はこれから行う。 救急隊員による研修を受けたり、必要に応じて改定している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	1	避難訓練や災害伝言ダイアルの体験などを行なっている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	1	現在、医師に指示書に基づく食物アレルギーのお子さんは利用されていない。	指示書が必要なお子さんが通所していないが、整備していく必要があるため、担当スタッフを設け整備していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	14		オリエンテーションで周知している。	

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	稲城市発達支援センター分室　レスポーいなぎ大丸

公表日 2026年2月2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14		終礼でヒヤリハットの報告を実施、月1回集計しヒヤリハット内容をまとめてスタッフに回覧している。 登降園マニュアルや運動遊具使用マニュアルを改訂している。 毎日インシデントの共有を行なっている。 毎日の振り返りでインシデントアクシデントを共有している 毎日夕礼で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		小さな出来事をスタッフ間で共有する研修を毎年実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14		身体拘束を実施する際は、身体拘束以外の方法について検討したり、身体拘束の対応をなくしていくための検討をしている。	